

鳥取県経済同友会東部地区 11月例会報告

- 1 日 時 令和6年11月28日（木）18：30～
- 2 場 所 ホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」
- 3 講 演 「広域観光を見据えた智頭急行の取り組み」
講師 智頭急行株式会社
代表取締役社長 西尾浩一 氏

4 出席者 会員22名

5 講演要旨

智頭急行は開業までの道のりが長く明治22年（1889年）の私鉄敷設計画から始まり、日清戦争、関東大震災、太平洋戦争等で中止や延期となり、戦後の昭和37年（1962年）3月の鉄道建設審議会において、智頭一上郡を智頭線として工事線に採択され、昭和42年6月に鉄建公団が工事着手した。ところが、昭和55年12月の国鉄再建法の成立により、工事が中断された。鉄道の開業に向けて地元の期待を受けて昭和61年に設立した智頭鉄道株式会社が事業を引き継ぎ、社名変更を経て智頭急行株式会社が平成6年12月3日に智頭線を開業した。



【講演する西尾浩一氏】

智頭急行は開業までの道のりが長く明治22年（1889年）の私鉄敷設計画から始まり、日清戦争、関東大震災、太平洋戦争等で中止や延期となり、戦後の昭和37年（1962年）3月の鉄道建設審議会において、智頭一上郡を智頭線として工事線に採択され、昭和42年6月に鉄建公団が工事着手した。ところが、昭和55年12月の国鉄再建法の成立により、工事が中断された。鉄道の開業に向けて地元の期待を受けて昭和61年に設立した智頭鉄道株式会社が事業を引き継ぎ、社名変更を経て智頭急行株式会社が平成6年12月3日に智頭線を開業した。

広域観光を見据えた取り組みでは、平成25年6月に恋山形駅を恋駅として駅全体をピンク色に装飾、駅名標をハート型に変更した。賛否あるが駅で記念写真を撮る人が多い。平成26年11月には、スーパーはくとの車内設備を改修し、各座席にコンセントの設置、大型荷物置き場の新設等を行った。平成30年3月には、夜空にきらめく星のように美しい車両をイメージし、たくさんのお客様に駅や沿線においていただけるようお願いを込めてイベント車両「あまつぼし（天津星）」を登場させた。これまで、音楽会やカラオケ列車、会社の親睦会などに利用されている。令和5年12月にスーパーはくと名探偵コナン号が運行開始している。今年12月3日に開業30周年を迎えることから記念事業として、運転席横の助手席への乗車体験、あまつぼしで行くほろよい列車、大感謝祭、駅名ネーミングライツ等を行っている。

今後は、大阪・関西万博へ対応するための増便、ハイブリット車を基軸とした新型車両更新等を考えている。

参加した会員からは、ハイブリット車両更新及びネーミングライツ取得企業のメリットの質問が出された。西尾講師は、ハイブリット車は現在の車両よりスピードが出ない課題がある、また、ネーミングライツについては、駅名標の上部に企業名を掲載する等回答された。